



▶ 学年 中学校 第3学年

▶ 主題 「家族の支えがあるから…」 B-14 家族愛、家庭生活の充実
（「背筋をのばして」東京書籍「新しい道徳3」）

POINT
01

対話的な学びを引き出す教師の仕掛け

本教材文は、進路においてデザイナーへの道を歩みたい登場人物（千里）が、父親との思いの衝突と和解を経験することで、改めて自分のことを家族が支えてくれていることに気付き、家族に感謝の気持ちをもち人生の新たな一歩を踏み出すという物語である。教師は、自分の進路に悩む中学3年生だからこそ、千里と父親の思いが衝突する場面を取り上げることで、自己を見つめながら千里の気持ちを考えたり、両親の気持ちを想像して多面的・多角的に考えたりすることができる考えた。

POINT
02

対話的な学びの様子

◎ 千里の心情を想像する。

教師 「千里の思いを知った父親が沈黙していた時、千里はどのような気持ちでいたのでしょうか。」

生徒A 「どうして応援してくれないのかな、という気持ちだと思います。」

生徒B 「何を言ってもどうせ認めてくれないのではないかな、と諦めているのかも。」

生徒C 「親なのだから応援してほしいのにな、と感じていると思います。」

教師 「Bさんは、なぜそのように考えたのですか。同じような経験があったのかな。」

生徒B 「僕は弓道部に入りたかったのだけれど、両親に野球部をすすめられたことがあって、**千里と似ていると思いました。**」

生徒D 「私も、やりたい習い事があったけれど、両親に反対されたことがありました。」

生徒E 「犬を飼いたいと言ったときに「どうせ世話しないでしょ。」と言われた時も、**千里と同じような気持ちになったな。**」

◎ 父親の心情を想像する。

教師 「Cさんは、「親なら応援してほしい。」と言っていたけど、もう少し詳しく話せますか。」

生徒C 「親ならば、子どものしたいことを応援すべきだと思うんです。だから、私はお父さんの気持ちは理解できないな。」

生徒F 「お父さんはがっかりしたんじゃないかな。クリーン屋を継いでくれると期待していたのに裏切られたから。」

生徒G 「私は、親だから応援しなければという気持ちと、残念な気持ちの両方がお父さんにはあったのだと思うよ。」

—『授業者の視点』—〇

（相双教育アピールより）

登場人物の心情を話す生徒に、どのように考えた理由や同じような経験があったかを問い返すことで自己を見つめることができるようにする。また、本時のように複数の登場人物の立場や気持ち等を問い、多面的・多角的に考えることができるようにすることも大切である。



QRコードより、実際の対話の様子が視聴できます。



POINT
03

学びが深まった児童生徒の姿

〈授業後の振り返り〉

- 部活動の送り迎えを当たり前だと思っていたけれど、私を応援してくれる気持ちを込めて送迎してくれているのだから、その気持ちに感謝したい。
- 「勉強しなさい。」と言われて、素直に言うことを聞けないこともあるけれど、私の将来を心配してくれているということを忘れないことが大事だと思った。

教師は、授業の中で登場人物の気持ちを自分との関わりの中で考えられるよう発問したり、生徒の考えを生かしながら保護者の気持ちについても考えることができるようにしたりした。そのような働きかけにより、生徒は授業の振り返りにおいて自分の生き方について考えを深めることができた。